

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000092		
法人名	株式会社さちコーポレーション		
事業所名	グループホームさち (うめ)		
所在地	愛知県豊田市栄生町3-58		
自己評価作成日	令和3年1月8日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2393000092-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	令和3年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日課やスケジュールにとらわれず、自宅のように入居者が生活できるように雰囲気を作っている。日中の施設を行わず、帰りたい気持ち・外へ散歩したい気持ち等、その時その時の思いに寄り添って傾聴や気分転換、やりたいことの達成のための支援をどの職員もやっている。法人内の訪問看護ステーションや協力医と連携し、重度化や看取りへの対応し、本人・家族が願う最期の過ごし方のお手伝いを長年実施してきている。20代～60代の職員が男女まんべんなく在籍し、どの職員も明るく協力し合って入居者の生活の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周りは桜並木や畑が広がり、公園や学校、病院などが点在する閑静な住宅地に位置し、四季の移ろいを感じながら散歩や買い物を楽しめる環境にある。「自分らしく生きる」ための居場所を目指して、毎年、ユニット毎の目標や個人目標を立て、入居者それぞれが自分らしさを発揮し、安心して楽しく過ごせるように入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。毎月開催される「さち市」や、定期的を訪れる豊田工業専門学校ボランティア学生、楽器演奏などのお楽しみボランティアとの交流はコロナ禍で踏み止まっている。車窓から自宅や勤めていた会社を眺めたり、電話や手紙などの交信、馴染みの店からの出前など、今までにはない支援を模索して共に楽しめるようにしている。また、毎月のホームだよりには、写真を多く掲載し、アルバム風に工夫をして家族に届け、好評を得ている。食事作りは、今は入居者と一緒に買い物には行けないが、季節や行事、郷土食や好みを取り入れた献立を考え、三食とも手作りの食事を継続して提供している。落ち着いた高級感ある調度品が置かれているリビングで、それぞれが趣味に取り組んだり、会話を楽しんだり、愛犬「メリー」と戯れたりしてゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年事業所理念に基づいたユニット目標をチームでつくり、その実現に向けて努力している。また、職員会議等での話し合いや確認等を行っている。	理念は玄関に掲示し、何時でも確認できるようにしている。理念を基に、毎年ユニット目標や個人目標を設定し、日々の行動指針としている。職員会議などで定期的に理念に基づく支援について話し合い、日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度と比べて新型コロナの影響により、地域との関わりの機会が激減したが、庭に出た際や散歩等で出会った方々との挨拶などソーシャルディスタンスを保った交流は続けている。	町内会に加入し、地域の盆踊りや秋祭り、周辺の清掃などに参加している。月1回の「さち市」では地元の農産物の販売や入居者の作品販売を通じて地域との交流を深めたり、高齢者施設との交流を行っている。豊田高専のボランティア学生が定期的に訪れ、清掃やレクリエーションなどの活動を行ったり、演奏会などのボランティアも受け入れていたが、コロナ禍でとどまっている。違う形での関係性構築を模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページで日頃の取り組みの紹介や運営推進会議等での発信、電話や来所者からの相談対応等を通じて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナの影響により、ホーム内で一度も開催できず書面での報告となった。電話や書面での意見交換を行い、頂いた意見を参考に特に今年度は新型コロナへの対応等に反映している。	家族、区長、民生委員、包括支援センター職員の参加を得て、2か月に1回開催し活発な意見交換の場であったが、昨年4月以降、書面での開催としている。事前に電話などで意見交換をしたり書面で意見を頂いたりして、新型コロナへの対応やサービスの向上に役立っている。議事録は家族や関係者に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊田市の介護相談員が新型コロナの落ち着いた期間に訪問し、現状の確認や他事業所での取り組み等の情報交換など行った。	新型コロナウイルスの影響で担当課とは、郵送やメール、電話での情報提供などを行っている。コロナ感染状況を確認して介護相談員が訪問し、情報交換を実施した。研修等の受講は控えている。万全な対策の下で講師として研修の参加をしている。包括や連絡協議会などの会議はリモートで行っており、コロナ禍の下でも連携は維持されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設時より日中玄関等の施錠は行っていない。年2、3回は関係する勉強会を行ったり職員会議等で日頃から不適切ケアが行われていないか確認しながら予防に努めている。	マニュアルをもとに話し合いの場を持ち、意識を高めるようにしている。慣れでつい出てしまう言葉遣いや対応などに常に注意し、日々振り返りをしながら、束縛感のない環境作りに努めている。玄関は開錠しているので、独り散歩など見守りの中で行ったり、ユニットの生活空間を自由に行き交えるような支援をしているが、コロナ禍において控えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時及び年2、3回は関係する勉強会を行ったり職員会議等で日頃から不適切ケアが行われていないか確認しながら予防に努めている。職員のストレスにおいても日頃からチーム内で確認や配慮等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回は権利擁護についての勉強会を行っている。社内研修では日常生活自立支援事業等の制度までは解説していないが、人権視点からの虐待防止や自律支援の内容を中心に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より契約や解約時等説明を行っている。今年度は新型コロナの影響により、例年よりも短時間での説明となっているが、電話等で質問や補足説明等の対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日頃の生活の中で希望や要望等をうかがうよう努めている。新型コロナの影響により、家族とは面会の機会が減ってしまったが、短い面会時間や電話等で意見や要望をうかがい、会議等で職員間で共有、対応等を考え実施している。	入居者からは日々のケアの中から、家族からは運営推進会議や面会、行事などの折に思いや意向を聞き、会議などで共有してケアに繋げている。コロナ禍においては、ガラス越しの面会時や電話、ラインなどで意向を聞き、職員はタブレットを利用したシステムで共有して運営に活用している。毎月のホームだよりは、写真を多く掲載し、アルバム風に工夫をして、家族に届けており、家族からは好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面談や月2回ある会議だけでなく、日頃から細かな提案から全体で考える必要のある意見等を聞き、改善に繋がるように努めている。	月2回のユニット会議やケースカンファレンス、日常業務の中で、職員の意見や提案、希望を把握している。申し送り帳や気づきシートを活用し、必要に応じて反映している。人事考課を基に、年2回の面談を実施し職員の要望や意見、悩みなどを聞く機会を設けている。職員は事業所内の委員会の何れかに所属し、意見や提案などを検討して運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談を中心にそれぞれの家庭事情も含めて働きやすい勤務等の配慮を行っている。毎年各個人の目標を設定し、達成に向けた支援と達成度合いを評価を行い、給与等にも反映し、モチベーション維持につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は能力に合わせ最低1ヶ月のOJTを実施。資格取得支援制度を活用した専門資格の取得を勧めている。今年度は新型コロナの影響で外部研修は中止となったが代替でWEB研修を導入し、学習を続けられる環境をつくった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響により職員レベルでの交流機会が例年と比べて非常に少なく、Zoom等によるオンライン研修のみだった。管理者レベルでは県GH協会のブロック会議等で各事業所での新型コロナ対策等情報交換を行うことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人・家族等と面談し困りごとや要望等を確認してから支援内容を考え、入居時の不安を軽減できるよう努めている。希望あれば体験入居していただき本人の不安や希望等を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時から困りごと等相談に対応しながら関係づくりを行っている。入居までに時間がかかることが多いため、半年をめぐりに本人の状況の確認をしながら合わせて家族の困りごとや不安等聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を踏まえて、GH入居で得られる効果や予測されるリスク等を伝え、サービス利用の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業を中心に利用者にも手伝っていただいたり、介助や見守りの必要な利用者を周りの利用者が気にかけて声をかけて面倒を見てくれたりと、共に生活する者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の様子をまとめた報告書を月1回郵送し現在の利用者の状況を家族と共有している。新型コロナの影響により面会がほとんど行えない状態だが、LINEのビデオ通話等で本人との面会を行い、寂しさの軽減にも協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により例年のように馴染みの場所へ出かけたり会う機会は減ってしまったが、車内から自宅や場所へ出かけたり、LINEのビデオ通話等で関係が途切れないように支援に努めている。	友人や親族の面会、神社の参拝やスーパー、商店街での買い物などに出かけたり、美容院や図書館などを利用して昔馴染みの風情、人や場所との関係が途切れないよう支援に努めているが、今は踏み止まっている。車窓から公園や自宅、会社を見たりなどのドライブ、兄弟や知人からの手紙、電話などのやり取りが増加している。ストリートビューやYOUTUBE等も活用して支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように座席を配慮したり、不安な様子がある場合は間に入り調整している。日頃から皆で家事や活動など参加したり、見守りや介助の必要な利用者には元気な利用者が声掛けや見守りし互いに助け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人のサービス終了後もボランティアに来てくださったり、他の家族についての相談から新たなサービス利用につながることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で思いや暮らし等の希望をうかがいチーム内で共有・検討し、ケアプランに反映させたり実現できるように支援している。	日々のケアの中で会話や表情から希望や意向を読み取り、日報や送り帳に記録し、ケアプランに反映している。家族の希望や意向も確認し、ケース会議で話合っている。思いの表出の少ない方については、家族から情報を得たり、日々じっくり関わる中で思いを読み取るようにしている。随時職員間で話し合い、本人の思いに沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンターシートに基づいた情報収集を行っている。入居後も日頃の会話の中から把握した生活歴等情報があれば家族に情報の確認を行い、日頃の支援に活用できることがあれば活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体や精神面の変化を中心に変化や行った様子を記録に残し、チーム内で情報共有している。普段と違う様子があれば、申し送りでも伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	おおむね半年をめぐりに介護計画の見直しを行っている。本人・家族に状況の報告と意向の確認を行い、月1度のカンファレンスで支援についての検討をユニット内職員全員で行っている。その結果を踏まえて介護計画を作成している。	入居者の意向や日常の様子を基に、家族の意見等をふまえて介護計画を作成している。月2回の会議でアセスメントをし、3か月毎にモニタリングを行い、6か月に1回の定期見直しをしている。状況に応じて医師の意見を反映させて随時の見直しもしている。家族に内容を説明し同意を得え、どの職員も記録内容を共有し、同じケアができるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度紙媒体から電子カルテに記録媒体を変えたため、変更当時は記録内容の不備があったが、現在は以前の紙媒体程度に変化や気づき等記録を残し、日々の申し送りや会議等で情報共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の希望や状況に合わせて柔軟に対応できるよう心がけている。具体的には食事の好みや形態、提供時間等。また、今年度は新型コロナにより面会が十分に行えない分、LINEのビデオ通話など取り入れる等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナの影響で運営推進会議やボランティアなど地域との関わりがほとんど持てない状況であった。おむつ券の対象となる方には情報をお伝えし負担軽減につなげる等行ってきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のほか、これまでに通院していたかかりつけ医の希望があれば通院を家族と協力しながら継続している。	内科協力医の往診が月2回あり、希望により訪問歯科や訪問リハも受診でき、適切な医療を受けられるような支援をしている。現在、訪問リハは自粛をしている。かかりつけ医や眼科、皮膚科等を希望する場合は家族の送迎を基本としているが、状況により事業所でも対応することもある。医師、看護師は24時間オンコールであり、適切な医療が受けられる体制となっている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては、職員間で確認しながらケアにつなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の訪問看護と連携し、日頃の健康状態の確認は定期訪問やタブレット端末からの確認を行っている。異常時や服薬についての相談も日頃からアドバイスをいただいたり等連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には看護サマリーを速やかに病院へ渡している。入院中は病院担当者や電話等にて状況確認や退院の目途や予後、ホームでの受け入れ可能かの相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や急変時の意向確認を行っている。年に1回を目安に見直しをしている。終末期には、医師・看護師とも連携しながら、本人・家族が安心して最期を迎えられるように随時意向確認しながら取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期に向けた方針を説明し、書面を取り交わしている。本人の身体状況に変化があればその都度、家族の意向も確認しながら、医師や看護師、その他関係機関と話し合い、入居者にとって最善の援助ができるように方針を決めている。終末期は医師の指示の下、センサーロボットを活用し、入居者の状態を見ながら家族と相談して本人にとって一番良い方法を検討している。看取りの対応やメンタルケアも含めて事業所内で研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回は急変や事故発生時の対応の確認を行っている。2年に1回は全職員が普通救命講習を受講し、急変や事故発生時に速やかに対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災および地震を想定した訓練をそれぞれ年2、3回行っている。毎年1回は運営推進会議で実施しているが、今年は新型コロナの影響で地域住民や消防署職員を含めた訓練が実施できなかった。	リスクマネジメント委員会が作成したマニュアルに基づき、訓練を年3回実施し、その内1回は運営推進会議で実施しているが、コロナ禍で未実施である。また、入居者と共に地域の福祉避難所に避難する訓練も行っている。地域の協力体制は整えられている。備蓄は水や食料など3日分蓄えがあり、炊き出し訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けや羞恥心等に配慮した対応を心がけている。	接遇研修を毎年実施し、人生の先輩として尊厳をもって接することを意識し、本人本位に検討し実践に繋げている。センター方式のシートで思いや生活史を把握し、本人の得意なことをホーム内で活かし、誇りを持って過ごせるような支援を行っている。入居者の個性や人格、相性などを考慮し、それぞれのプライバシーや立場を尊重したケアに心がけ、より良く過ごせるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声掛けや、選択しやすいように文字や現物を見せる等自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペース、その時の気持ちに合わせて支援するように心がけている。行事やレク活動も本人の希望に沿って、参加不参加を決めていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で行うことが難しい方は、これまでの服の傾向や化粧等行っていたことを職員が変わって対応するようにしている。できる能力のある方は職員が声掛け等で続けられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みやお祝い事等に合わせた食事を準備するように心がけている。メニュー決めから準備、片づけまで利用者と作業分担し行っている。今年度は新型コロナの影響で外食が行えなかったが、馴染みのあるお店の出前等で楽しんでいただいた。	入居者と共に行き買い三食手作りの食事を提供している。コロナ禍で買い物や外食は控えているが、季節や入居者の希望を取り入れた献立で、三食手作りの食事は継続している。誕生日や行事食、郷土料理や手作りおやつ、馴染みの店からのデリバリーの利用など、食べる楽しみが持てるような工夫をしている。菜園で収穫をした野菜や地域の方のすそわけの野菜なども食卓に彩を添えている。食事の献立や調理、盛り付けや片付けなどは、コロナ対策として各ユニット毎に職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の利用者の状態を確認しながら、提供量や提供の形態を見直している。嚥下機能等に合わせておかずの大きさを調整したり、食器も変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・晩は必ず声掛けもしながら口腔ケアを行っている。昼は個々に任せているが指示のある方は口腔ケアや処置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけながら個々の排泄リズムを把握している。羞恥心に配慮しながら誘導を行っている。身体能力・理解力や排泄状態に合わせてパットやオムツ類を随時見直し、清潔で気持ちよく過ごせるように配慮している。	トイレでの排泄を目指して、チェック表でリズムをつかみ、さりげなく声かけをして誘導している。日中はできる限り布パンツを使用して過ごせるよう支援している。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。野菜の多い食事や水分摂取量に配慮し、酵素ジュース等で自然な排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認表でチェックしながら、便秘蛍光にある場合は水分の促しや散歩等運動で改善するように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前～夕方までの時間限定ではあるが、毎日入浴できるように準備している。利用者の希望をうかがいながら入浴時間や入浴剤の使用等を決めている。少なくとも2、3日に一度は入浴していただけるように声掛けしている。	機械浴も設置され、週2回以上を目標に、午前、午後の入浴時間としている。希望者は毎日でも入浴できる。足浴や清拭、ドライシャンプーなど気分や体調をみながら支援している。入浴を拒む方には、声かけを工夫したりタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。季節を感じるゆず湯や菖蒲湯などで入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や状況に応じて、就寝環境を整えたりしている。就寝リズムが乱れている方は日中活動をなるべく増やして安眠に繋がるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の確認をチーム内で行い、きちんと服用できるように利用者の能力に合わせて支援している。特に新しく服用する薬については変化に気をつけ、訪問看護に報告相談しながら薬の見直し等もやっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことや好きなこと等も確認しながらそれぞれに合った役割や活動を考え取り組んでいる。気分転換には散歩やドライブなどを中心に積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナの影響で家族や地域の人々との外出や毎年行っている日帰り旅行は行えないが、日頃から希望に合わせて散歩やドライブ等外出を中心とした支援をほぼ毎日行っている。	事業所周辺の散策やパン屋、喫茶店など日々の散歩コースや事業所のウッドデッキでのお茶会や日向ぼっこ、ベンチでの休憩など、日常的に戸外に出る機会を大切にしている。梅や桜、菖蒲、紅葉など季節毎の花見に出かけたり、普段行けない所へ家族と出かけることもあるが、コロナ禍の中、散歩とドライブを中心に外出の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力も踏まえて本人管理・ホーム管理等対応している方もいる。今年度は新型コロナの影響で買い物が行えない状況であり、支払う場面がほぼなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人家族の希望に合わせて電話やビデオ通話を行っている。年賀状を中心に家族との手紙のやり取りを行っている利用者もあり、手紙を書く支援が必要な方にはお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の作品作り等を通じて、季節を感じてもらうように努めている。日めくりカレンダーも活用し、今がわかるように配慮している。掲示物の配置も考えながら、随時変更等行っている。	玄関やリビングには季節を感じる花や飾りが置かれている。白と木目調の壁には、絵画や入居者の作品が程良く飾られ、落ち着いた雰囲気となっている。キッチン是对面式で、調理をしながらフロアが見渡せる。日差しが入るゆったりとしたリビングには、食事コーナーや畳コーナー、ソファが置かれ、入居者は思い思いの時間をテレビや新聞を見たり、お喋りをしてゆったりと過ごしている。広いウッドデッキで椅子を並べてお茶会を開くなど、季節を感じられるような生活の支援を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中にソファやリクライニングソファを配置し、好きな時に座っている。デッキもあり、外で一人ゆっくり日向ぼっこされたり、皆さんとお茶をして過ごしたり過ごす場所もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやテレビ、ピアノなど用意してなるべく自宅に近い環境を作っている居室もある。家族写真等も持ってきていただき、居室内が居心地よく過ごせるように家族にも協力頂いている。	ベッド、エアコン、筆筒、カーテンが備え付けられている。入居者は馴染みの椅子やテレビ、こたつや仏壇など自宅で使用していた物や大事にしていた物を持ち込んで安心できるスペースや環境作りをしている。本人や家族が希望する小物や家族の写真を貼ったりして、居心地良く過ごせるように工夫をしている。掃除は職員と一緒に行き清潔な空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等場所がわかるように案内や目印をつけたりしている。道具等も利用者の取りやすい位置を考えながら配置している。利用者それぞれの身体能力や理解力に合わせて簡易手すりを設置したりし、安全に配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000092		
法人名	株式会社さちコーポレーション		
事業所名	グループホームさち (さくら)		
所在地	愛知県豊田市栄生町3-58		
自己評価作成日	令和3年1月8日	評価結果市町村受理日	令和3年3月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2393000092-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和3年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日課やスケジュールにとらわれず、自宅のように入居者が生活できるように雰囲気を作っている。日中の施設を行わず、帰りたい気持ち・外へ散歩したい気持ち等、その時その時の思いに寄り添って傾聴や気分転換、やりたいことの達成のための支援をどの職員もやっている。法人内の訪問看護ステーションや協力医と連携し、重度化や看取りへの対応し、本人・家族が願う最期の過ごし方のお手伝いを長年実施してきている。20代～60代の職員が男女まんべんなく在籍し、どの職員も明るく協力し合って入居者の生活の支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周りは桜並木や畑が広がり、公園や学校、病院などが点在する閑静な住宅地に位置し、四季の移ろいを感じながら散歩や買い物を楽しめる環境にある。「自分らしく生きる」ための居場所を目指して、毎年、ユニット毎の目標や個人目標を立て、入居者それぞれが自分らしさを発揮し、安心して楽しく過ごせるように入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。毎月開催される「さち市」や、定期的を訪れる豊田工業専門学校ボランティア学生、楽器演奏などのお楽しみボランティアとの交流はコロナ禍で踏み止まっている。車窓から自宅や勤めていた会社を眺めたり、電話や手紙などの交信、馴染みの店からの出前など、今までにはない支援を模索して共に楽しめるようにしている。また、毎月のホームだよりには、写真を多く掲載し、アルバム風に工夫をして家族に届け、好評を得ている。食事作りは、今は入居者と一緒に買い物には行けないが、季節や行事、郷土食や好みを取り入れた献立を考え、三食とも手作りの食事を継続して提供している。落ち着いた高級感ある調度品が置かれているリビングで、それぞれが趣味に取り組んだり、会話を楽しんだり、愛犬「メリー」と戯れたりしてゆったりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年事業所理念に基づいたユニット目標をチームでつくり、その実現に向けて努力している。また、職員会議等での話し合いや確認等を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度と比べて新型コロナの影響により、地域との関わりの機会が激減したが、庭に出た際や散歩等で出会った方々との挨拶などソーシャルディスタンスを保った交流は続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページで日頃の取り組みの紹介や運営推進会議等での発信、電話や来所者からの相談対応等を通じて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナの影響により、ホーム内で一度も開催できず書面での報告となった。電話や書面での意見交換を行い、頂いた意見を参考に特に今年度は新型コロナへの対応等に反映している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	豊田市の介護相談員が新型コロナの落ち着いた期間に訪問し、現状の確認や他事業所での取り組み等の情報交換など行った。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設持より日中玄関等の施錠は行っていない。年2、3回は関係する勉強会を行ったり職員会議等で日頃から不適切ケアが行われていないか確認しながら予防に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時及び年2、3回は関係する勉強会を行ったり職員会議等で日頃から不適切ケアが行われていないか確認しながら予防に努めている。職員のストレスにおいても日頃からチーム内で確認や配慮等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回は権利擁護についての勉強会を行っている。社内研修では日常生活自立支援事業等の制度までは解説していないが、人権視点からの虐待防止や自律支援の内容を中心に行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より契約や解約時等説明を行っている。今年度は新型コロナの影響により、例年よりも短時間での説明となっているが、電話等で質問や補足説明等の対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は日頃の生活の中で希望や要望等をうかがうよう努めている。新型コロナの影響により、家族とは面会の機会が減ってしまったが、短い面会時間や電話等で意見や要望をうかがい、会議等で職員間で共有、対応等を考え実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の面談や月2回ある会議だけでなく、日頃から細かな提案から全体で考える必要のある意見等を聞き、改善に繋がるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談を中心にそれぞれの家庭事情も含めて働きやすい勤務等の配慮を行っている。毎年各個人の目標を設定し、達成に向けた支援と達成度合いを評価を行い、給与等にも反映し、モチベーション維持につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は能力に合わせ最低1ヶ月のOJTを実施。資格取得支援制度を活用した専門資格の取得を勧めている。今年度は新型コロナの影響で外部研修は中止となったが代替でWEB研修を導入し、学習を続けられる環境をつくった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響により職員レベルでの交流機会が例年と比べて非常に少なく、Zoom等によるオンライン研修のみだった。管理者レベルでは県GH協会のブロック会議等で各事業所での新型コロナ対策等情報交換を行うことができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人・家族等と面談し困りごとや要望等を確認してから支援内容を考え、入居時の不安を軽減できるよう努めている。希望あれば体験入居していただき本人の不安や希望等を把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時から困りごと等相談に対応しながら関係づくりを行っている。入居までに時間がかかることが多いため、半年をめぐりに本人の状況の確認をしながら合わせて家族の困りごとや不安等聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談を踏まえて、GH入居で得られる効果や予測されるリスク等を伝え、サービス利用の見極めを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業を中心に利用者同士で作業分担を行ったり、介助や見守りの必要な利用者を周りの利用者が気にかけて声をかけて面倒を見てくれたりと、共に生活する者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の様子をまとめた報告書を月1回郵送し現在の利用者の状況を家族と共有している。新型コロナの影響により面会がほとんど行えない状態だが、LINEのビデオ通話等で本人との面会を行い、寂しさの軽減にも協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により例年のように馴染みの場所へ出かけたり会う機会は減ってしまったが、車内から自宅や場所へ出かけたり、LINEのビデオ通話等で関係が途切れないように支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように座席を配慮したり、不安な様子がある場合は間に入り調整している。日頃から皆で家事や活動など参加したり、見守りや介助の必要な利用者には元気な利用者が声掛けや見守りし互いに助け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人のサービス終了後もボランティアに来てくださったり、他の家族についての相談から新たなサービス利用につながることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の関わりの中で思いや暮らし等の希望をうかがいチーム内で共有・検討し、ケアプランに反映させたり実現できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンターシートに基づいた情報収集を行っている。入居後も日頃の会話の中から把握した生活歴等情報があれば家族に情報の確認を行い、日頃の支援に活用できることがあれば活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体や精神面の変化を中心に変化や行った様子を記録に残し、チーム内で情報共有している。普段と違う様子があれば、申し送りでも伝えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	おおむね半年をめぐりに介護計画の見直しを行っている。本人・家族に状況の報告と意向の確認を行い、月1度のカンファレンスで支援についての検討をユニット内職員全員で行っている。その結果を踏まえて介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年度紙媒体から電子カルテに記録媒体を変えたため、変更当時は記録内容の不備があったが、現在は以前の紙媒体程度に変化や気づき等記録を残し、日々の申し送りや会議等で情報共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の希望や状況に合わせて柔軟に対応できるよう心がけている。具体的には食事の好みや形態、提供時間等。また、今年度は新型コロナにより面会が十分に行えない分、LINEのビデオ通話など取り入れる等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は新型コロナの影響で運営推進会議やボランティアなど地域との関わりがほとんど持てない状況であった。おむつ券の対象となる方には情報をお伝えし負担軽減につなげる等行ってきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のほか、これまでに通院していたかかりつけ医の希望があれば通院を家族と協力しながら継続している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の訪問看護と連携し、日頃の健康状態の確認は定期訪問やタブレット端末からの確認を行っている。異常時や服薬についての相談も日頃からアドバイスをいただいたり等連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーを速やかに病院へ渡している。入院中は病院担当者や電話等にて状況確認や退院の目途や予後、ホームでの受け入れ可能かの相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や急変時の意向確認を行っている。年に1回を目安に見直しをしている。終末期には、医師・看護師とも連携しながら、本人・家族が安心して最期を迎えられるように随時意向確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回は急変や事故発生時の対応の確認を行っている。2年に1回は全職員が普通救命講習を受講し、急変や事故発生時に速やかに対応できるように訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災および地震を想定した訓練をそれぞれ年2、3回行っている。毎年1回は運営推進会議で実施しているが、今年は新型コロナの影響で地域住民や消防署職員を含めた訓練が実施できなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けや羞恥心等に配慮した対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせた声掛けや、選択しやすいように文字や現物を見せる等自己決定しやすいように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやペース、その時の気持ちに合わせて支援するように心がけている。行事やレク活動も本人の希望に沿って、参加不参加を決めていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で行うことが難しい方は、これまでの服の傾向や化粧等行っていたことを職員が変わって対応するようにしている。化粧をする習慣のある方は手順を忘れても職員が声掛け等で続けられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みやお祝い事等に合わせた食事を準備するように心がけている。メニュー決めから準備、片づけまで利用者と作業分担し行っている。今年度は新型コロナの影響で外食が行えなかったが、馴染みのあるお店の出前等で楽しんでいただいた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の利用者の状態を確認しながら、提供量や提供の形態を見直している。嚥下機能等に合わせおかずの大きさを調整したり、食器も変えたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・晩は必ず声掛けもしながら口腔ケアを行っている。昼は個々に任せているが指示のある方は口腔ケアや処置を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけながら個々の排泄リズムを把握している。羞恥心に配慮しながら誘導を行っている。身体能力・理解力や排泄状態に合わせてパットやオムツ類を随時見直し、清潔で気持ちよく過ごせるように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認表でチェックしながら、便秘蛍光にある場合は水分の促しや散歩等運動で改善するように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前～夕方までの時間限定ではあるが、毎日入浴できるように準備している。利用者の希望をうかがいながら入浴時間や入浴剤の使用等を決めている。少なくとも2,3日に一度は入浴していただけるように声掛けしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣や状況に応じて、就寝環境を整えたりしている。就寝リズムが乱れている方は日中活動をなるべく増やして安眠に繋がるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の確認をチーム内で行い、きちんと服用できるように利用者の能力に合わせて支援している。特に新しく服用する薬については変化に気をつけ、訪問看護に報告相談しながら薬の見直し等も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことや好きなこと等も確認しながらそれぞれに合った役割や活動を考え取り組んでいる。気分転換には散歩やドライブなどを中心に積極的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナの影響で家族や地域の人々との外出や毎年行っている日帰り旅行は行えないが、日頃から希望に合わせて散歩やドライブ等外出を中心とした支援をほぼ毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力も踏まえて本人管理・ホーム管理等対応している方もいる。今年度は新型コロナの影響で買い物が行えない状況であり、支払う場面がほぼなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人家族の希望に合わせて電話やビデオ通話を行っている。年賀状を中心に家族との手紙のやり取りを行っている利用者もあり、手紙を書く支援が必要な方にはお手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の作品作り等を通じて、季節を感じてもらうように努めている。日めくりカレンダーも活用し、今がわかるように配慮している。夜間消防設備のランプで混乱をされる方もいるので、状況によってその時だけランプが目立たないようにしたりと対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中にソファやリクライニングソファを配置し、好きな時に座っている。デッキもあり、外で一人ゆっくり日向ぼっこされたり、皆さんとお茶をして過ごしたり過ごす場所もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスやテレビ、こたつなど用意してなるべく自宅に近い環境を作っている居室もある。家族写真等も持ってきていただき、居室内が居心地よく過ごせるように家族にも協力頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ等場所がわかるように案内や目印をつけたりしている。道具等も利用者の取りやすい位置を考えながら配置している。利用者それぞれの身体能力や理解力に合わせて簡易手すりを設置したりし、安全に配慮している。		